



誰もが自分自身の視野の限界を、
世界の限界だと思い込んでいる。

ショーペンハウアー

ゼンショーグループは
地の果て 海の果つるところまで
MMDシステムをつくります。

愛媛県 佐田岬半島

2026年3月期 中間期

中間報告書

2025年4月1日～2025年9月30日

ZÉNSHO

株式会社 ゼンショーホールディングス

目次

トップメッセージ	…	1
財務ハイライト	…	2
セグメント別ハイライト／概況	…	3・4
トピックス	…	5・6



株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役社長 兼 CEO

小川 洋平

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2025年6月、代表取締役社長兼CEOに就任いたしました。創業者の精神を受け継ぎ、「食を通じて、人類社会の安定と発展に責任をおり、世界から飢餓と貧困を撲滅する」という企業理念の実現に向け、ゼンショーグループは持続的な成長を目指してまいります。

昨今の物価高騰は、日々の暮らしに大きな影響を及ぼしています。こうした状況下においても、すき家では「おいしい牛丼を、より多くのお客様に手頃な価格で楽しんでもらいたい」という思いのもと、9月4日に価格改定を実施いたしました。技術革新による生産性の向上を通じて、高品質かつバリュー感のある価格を実現し、今後もお客様の食卓に安心と満足をお届けしてまいります。

ゼンショーは「食のインフラ」として、日常の食を支える存在であり続けることを使命としています。その使命を果たすため、原材料の調達から加工、物流に至るまで、グローバルなマーチャндаイジング・システムをさらに進化させ、安全でおいしい商品を安定的に提供してまいります。

また、お客様に快適な環境で食事を楽しんでいただけるよう、引き続き店舗環境の整備にも努め、地域の皆様に愛される店舗づくりを目指してまいります。

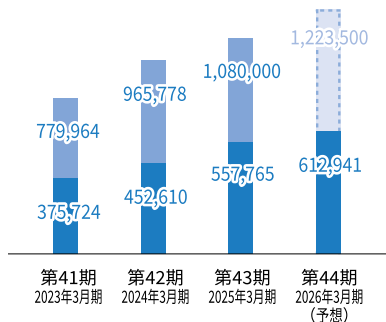
今後とも、株主の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(ご参考) 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

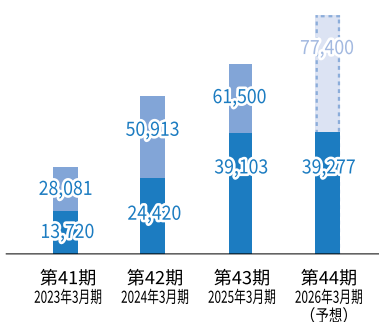
売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
12,235億円 前年同期比 7.6%増	820億円 前年同期比 9.1%増	774億円 前年同期比 7.7%増	425億円 前年同期比 8.2%増	260円94銭

売上高		営業利益	
6,129億41百万円	前年同期比 9.9%増	404億37百万円	前年同期比 1.7%減
経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
392億77百万円	前年同期比 0.4%増	232億55百万円	前年同期比 6.5%減

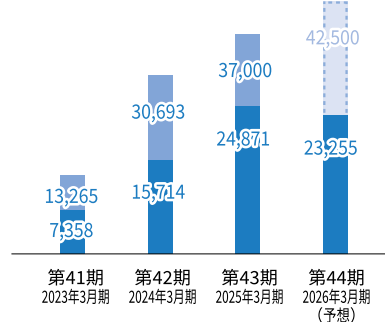
売上高 (単位: 百万円)



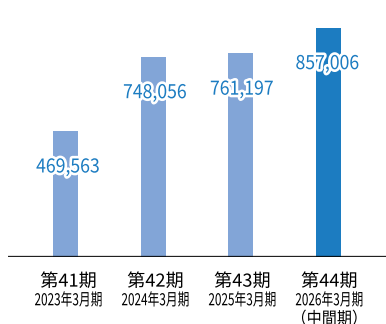
経常利益 (単位: 百万円)



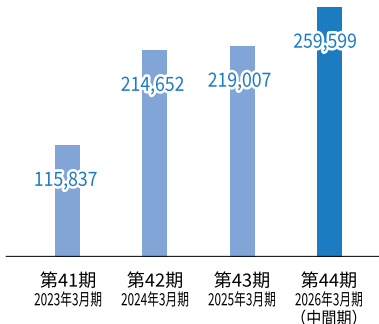
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



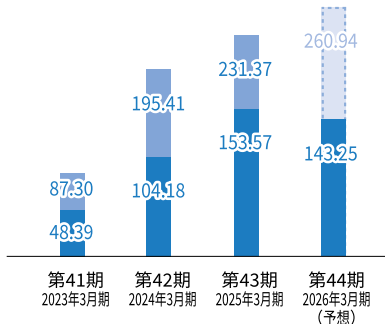
総資産 (単位: 百万円)



純資産 (単位: 百万円)



1株当たり当期純利益 (単位: 円)



※配当につきましては当初予想通り、中間配当1株当たり35円、
期末配当1株当たり35円とし、年間では70円を予定しております。

通期 中間期

■ グローバルすき家

「グローバルすき家」の当中間連結会計期間の売上高は、1,490億99百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は、37億71百万円（同71.9%減）となりました。

「すき家」は、日本国内と中国、東南アジア及び中南米に展開しており、ご家族やグループのお客様にもご利用いただけるよう、主力の牛丼を中心に安全で美味しい商品を手軽な価格で提供しております。

国内すき家の商品施策としては、原材料費やエネルギーコストなどの上昇により物価高が続いている経済環境の中、すき家の牛丼を多くのお客様により手頃な価格でお楽しみいただきたいという想いから牛丼の値下げを実施したほか、「ナポリタン牛丼」、「煮込みハンバーグカレー」、「めかぶオクラ牛丼」、「ニンニクの芽牛丼」、「バターチキンソースカレー」、「月見すきやき牛丼」、「エビ中華丼」などを販売しました。

また、前期末に国内すき家の一部店舗で発生した異物混入事案を受けた安全衛生対策については、清掃の強化や老朽化が進んでいる店舗の計画改装等に引き続き取り組んでいます。これらの対策にかかる費用及び前期末の3月31日から4月3日にかけて一部店舗を除く全店で営業を一時停止した際の諸費用を計上したことなどにより、当中間期は前年同期比で減益となりました。

なお、当報告セグメントの当中間連結会計期間末の店舗数につきましては、52店舗出店、43店舗退店した結果、2,630店舗（国内1,979店舗、海外651店舗）となりました。

■ グローバルはま寿司

「グローバルはま寿司」の当中間連結会計期間の売上高は、1,496億37百万円（前年同期比27.8%増）、営業利益は、119億17百万円（同22.6%増）となりました。

「はま寿司」は、日本と中国などに展開しており、新鮮な海産物を使用した寿司に加え、麺類やデザート、ドリンクなどのサイドメニューも充実させており、お子様から大人まで楽しんでいただいております。

なお、当報告セグメントの当中間連結会計期間末の店舗数につきましては、52店舗出店、2店舗退店した結果、785店舗（国内652店舗、海外133店舗）となりました。

■ グローバル中食

「グローバル中食」の当中間連結会計期間の売上高は、1,118億72百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は、153億84百万円（同18.3%増）となりました。

主要ブランドである「AFC(ZENSHI)」、「SNOWFOX」、「YO!」、

「Bento」、「SushiCircle」は、主として欧米で寿司等のテイクアウト商品を提供しております。

なお、当報告セグメントの当中間連結会計期間末の店舗数につきましては、469店舗出店、1,007店舗退店した結果、8,977店舗（FC7,990店舗含む）となりました。

■ グローバルファストフード

「グローバルファストフード」の当中間連結会計期間の売上高は、562億37百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は、22億88百万円（同48.9%増）となりました。

「なか卯」は、和食ファストフードチェーンとして、親子丼・京風うどんを中心に、バラエティ豊かな商品をお手頃価格で提供しております。そのほかに、ハンバーガーチェーンの「ロッテリア」、とんかつ専門店の「かつ庵」、武蔵野うどんの「久兵衛屋」、ハラル認証を取得したチキンライス専門店の「TheChickenRiceShop」などが当報告セグメントに含まれております。

なお、当報告セグメントの当中間連結会計期間末の店舗数につきましては、13店舗出店、35店舗退店した結果、1,195店舗（国内932店舗、海外263店舗、FC72店舗含む）となりました。

■ レストラン

「レストラン」の当中間連結会計期間の売上高は、841億99百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益は、67億21百万円（同22.3%増）となりました。

ファミリーレストランの「ココス」は、季節感を重視したフェアメニューの積極的な導入による商品の強化、専門店にも負けない本格的な味の追求、お客様が満足してお食事をしていただけるようサービス水準を高め、業績の向上に努めております。そのほかに、パスタ専門店の「ジョリーパスタ」、ハンバーグ&ステーキレストランの「ビッグボーイ」、厳選された牛肉を提供する焼肉チェーン店の「熟成焼肉いちばん」、本格イタリアンレストランの「オリーブの丘」、和食レストランの「華屋と兵衛」などが当報告セグメントに含まれております。

なお、当報告セグメントの当中間連結会計期間末の店舗数につきましては、2店舗出店、2店舗退店した結果、1,186店舗（国内1,185店舗、海外1店舗、FC77店舗含む）となりました。

■ 小売

「小売」の当中間連結会計期間の売上高は、388億3百万円（前年同期比0.8%増）、営業損失は、9億18百万円（前年同期は営業損失7億87百万円）となりました。

北関東中心に展開しているスーパーマーケット「マルヤ」、「ジョイ

フーズ」などのほか、青果販売等を行っている「ユナイテッドベジーズ」などが当報告セグメントに含まれております。

なお、当報告セグメントの当中間連結会計期間末の店舗数につきましては、1店舗退店した結果、125店舗となりました。

■ 本社・サポート

「本社・サポート」の当中間連結会計期間の売上高は、47億52百万円（前年同期比97.1%増）、営業利益は、12億88百万円（前年同期は営業利益95百万円）となりました。

食品の製造・加工を担う㈱GFF、物流機能を担う㈱グローバルフレッ

シュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する㈱グローバルテーブルサプ
ライなどが当報告セグメントに含まれております。

■ その他

「その他」の当中間連結会計期間の売上高は、183億40百万円（前年同期比4.0%減）、営業損失は、3億54百万円（前年同期は営業損失13億84百万円）となりました。

家庭用冷凍食品等を企画・開発・販売する㈱トロナジャパン、醤油やドレッシングなどの製造・販売を担う㈱サンビン、介護事業を運営する㈱輝、玄米・精米を販売する㈱ゼンショーライスなどが含まれております。

セグメント別売上高構成比

当社グループの代表的な子会社及び業態のロゴマークを記載しております。

その他

183億 40百万円
（グループ売上シェア 3.0%）

■ 主なブランド



本社・サポート

47億 52百万円
（グループ売上シェア 0.8%）

■ 主なブランド



小売

388億 3百万円
（グループ売上シェア 6.3%）

■ 主なブランド



レストラン

841億 99百万円
（グループ売上シェア 13.7%）

■ 主なブランド



■ 主なブランド



グローバルすき家

1,490億 99百万円
（グループ売上シェア 24.3%）



グローバルはま寿司

1,496億 37百万円
（グループ売上シェア 24.4%）



グローバル中食

1,118億 72百万円
（グループ売上シェア 18.3%）

■ 主なブランド



グローバルファストフード

562億 37百万円
（グループ売上シェア 9.2%）



生産者とその子どもたちとゼンショー社員

TOPICS
1

ZENSHO FAIR TRADE — ペルー共和国 —

持続可能な農業を目指して次世代の若者への継承を

ゼンショーはペルーのコーヒー生産者との間でフェアトレード活動を続けています。

これまで社会開発資金*を活用し、家庭菜園や改良かまどの設置、図書室の整備などを通じて、生産者の生活向上や教育格差の是正に取り組んできました。

現在は後継者不足という課題に対応し、地域の小中学校で農業教育を実施。地元の農家が子どもたちに種まきから収穫・販売までを指導し、農業への関心と土地への愛着を育んでいます。さらに南部ではコーヒースクールを開設し、専門知識や品質評価、交渉力を養うことで、地域産業を守る人財育成に努めています。

今後も若者が誇りを持って農業を継承できるよう、支援を続けてまいります。

※社会開発資金…原料買取価格の中で現地の人々が必要とする様々な生活改善活動に充てられる金額のこと。

みんなで植えました

コーヒースクール



TOPICS 2

すき家のHPに 「こども食堂」の 特設ページを開設

「こども食堂」を支援する取り組みの一環として、すき家ホームページ内に「こども食堂」特設ページを開設しました。

ゼンショーは食のインフラ企業として、2024年6月から「こども食堂」への食事提供活動を開始。これまで全国10都府県で、すき家・ココス・なか卯などグループ各店舗が協力し、累計4,000食の温かい食事を提供してきました。

今後も地域の「こども食堂」の思いを尊重し、ゼンショーグループの理念に共感いただけるよう、「そこに店舗があってよかった」と思っただけのような取り組みを、グループ全体で推進してまいります。

www.sukiya.jp/about/kids/



感謝のメッセージカード



交流しながら
楽しく
食べました



TOPICS 3

パキスタン支援を 契機とした マンゴー取引開始

ゼンショーは、2022年6月のパキスタン洪水を受けて食料支援や募金活動を行い、被災農家の自立支援プロジェクトを開始しました。

こうした関係強化を背景に、2024年8月にはパキスタン大使館主催のマンゴー試食会に参加し、糖度20度以上の高品質マンゴーの輸入を決め、2025年5月からグループのスーパーマーケットで販売を開始しました。

パキスタン産マンゴーは日本では珍しいものの、イギリスや中東では高級フルーツとして人気があります。高温多湿な気候とミネラル豊富な土壌が生む濃厚な甘みが魅力のマンゴーを、バリューのある価格で幅広いお客様に提供してまいります。

／ とっても甘くておいしいですよ ／

Pakistan
Mango



株主優待制度

当社では皆様の日頃のご厚情に感謝し、100株以上保有の株主の方に、当社グループ店舗でお使いいただける「株主様お食事ご優待券」をお届けしています。



100株以上300株未満	1,000円分（500円券×2枚）
300株以上500株未満	3,000円分（500円券×6枚）
500株以上1,000株未満	6,000円分（500円券×12枚）
1,000株以上5,000株未満	12,000円分（500円券×24枚）
5,000株以上	30,000円分（500円券×60枚）

ご優待券をご利用いただけるお店



代替品について

300株以上保有の株主様は、代替品交換制度をご利用いただけます。定められた期限内に未使用で最新の株主優待券（3,000円分）をご返送いただくと、ゼンショーグループのオリジナル商品との交換が可能です。

※詳細は株主優待券同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご覧ください。

代替品の一例



すき家
牛丼の具10食セット



晴雲酒造
純米大吟醸 善祥 別誂



ゼンショー
黒毛和牛ローストビーフ

ゼンショーサポーターズクラブ[ZSC]

当社の理念に共感してくださるファンを増やすことを目的としています。

ZSC会員特典

- ① 「会員情報紙」の送付
- ② グループ店舗で使えるZSC特別クーポンの送付
- ③ ZSCオリジナル商品の特別販売（通販）

入会手続き

「サポーターズクラブ入会案内申込みハガキ」よりお申込みください。

なお、300株以上保有の株主様は、優待券と交換でもお申し込みいただけます。詳細は株主様お食事ご優待券に同封の「優待券代替ラインアップ」をご確認ください。

〈お問合せ〉ZSC事務局 TEL:0120-959-309（フリーダイヤル）
受付時間 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）

大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本クリエイト	60,299	38.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,697	9.36
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,524	3.52
ゼンショーグループ社員持株会	2,725	1.74
State Street Bank West Tr. 505234	1,949	1.24
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	1,335	0.85
JP Morgan Chase Bank 385781	1,330	0.85
JP JPMSE LUX RE UB S AG LONDON BRANCH EQ CO	1,157	0.74
State Street Bank and Trust Company 505001	1,062	0.68
BOFAS INC SEGREGAT ION ACCOUNT	967	0.62

(注) 持株比率は自己株式(3,778,691株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	： 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
配当金受領株主確定日	： 3月31日及び9月30日
定時株主総会	： 毎年6月開催
基準日	： 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	： 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	： 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	： 0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）
単元株式数	： 100株
公告方法	： 原則として当社ホームページにて行います。電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。